「原子力緊急事態宣言」下の東京五輪

写真は今年 3 月に毎日新聞出版から刊行された小出裕章さんの著書。タイトル「原発事故は終っていない」ことを専門家の立場から鋭く訴えている。本書は次の 5 章から構成される。

第1章　福島第一原子力発電所で何が起きたのか
第2章　私たちが生きている間に原発事故は収束しない
第3章　見棄てられた日本国民
第4章　それでもまだ原発を続けるのですか？
第5章　いわれのない犠牲を他者に強いない生き方

小出さんらしい説得力ある心に迫る著書であり、多くのことを学んだ。ここでは第 3 章の表題について、抜粋して紹介したい。

東京電力福島第一原子力発電所で事故が起きた当日、日本政府は「原子力緊急事態宣言」を発令しました。安倍首相が「アンダーコントロール」などと発言した 2013 年、まだ日本は緊急事態宣言下にありました。それどころか、事故から 10 年たった 2021 年になっても、それは解除されていません。

緊急事態宣言が発令されている国でオリンピックという「お祭り」を開くなど、冗談もいい加減にしてほしいと思います。

今、政府に求められているのは、原子力緊急事態宣言を一刻も早く解除できるよう、総力を挙げて働くことです。オリンピックを開催することではありません。膨大な数の被害者たちの苦難を少しでも和らげるために、まずは、原子力緊急事態宣言の解除に最大限努力するのが国家の最大の責務です。

福島第一原子力発電所事故の被害を受けて、強制的に故郷を追われた人、家族離れ離れのなかで暮らす人、被曝と隣り合わせの過酷な現場で働き続けている人、そうした苦しみのなかでもがきながら必死で生活を守ろうとする人たちの救済こそ、最優先の課題なのです。少なくとも罪のない子どもたちは被曝から守られなければなりません。そうした待ったなしの現実が目の前にあるにもかかわらず、この国はオリンピックが大切だという非常な国なのでした。

コロナ危機のもと、東京・大阪などに「緊急事態宣言」が発令・延長され、対象地域も拡大されている。政府や自治体の「失政」も続き、コロナ禍収束は見通せていない。そんな中でも、菅政権は東京五輪開催に向け猛進している。コロナだけでなく、10 年前の福島第一原発事故の日に発令された「原子力緊急事態宣言」は、まだ解除されていない。多くの国民は、「原子力緊急事態宣言」のことを忘れているのではないか。

（2021 年 5 月 20 日）